

平成26年

大河ドラマ「軍師官兵衛」放映

黒田官兵衛と 加古川「光」^{てる}物語

加古川を舞台とした二人の軌跡を辿る



朱漆塗合子形兜 黒糸威五枚胴具足
福岡市博物館蔵・藤本健八撮影



お車でのアクセス

■大阪・神戸・明石から



■岡山・姫路から



電車でのアクセス(最寄駅)

■JR山陽本線・東加古川駅・加古川駅・宝殿駅

■新幹線・西明石駅・姫路駅 ■山陽電鉄・別府駅・浜の宮駅・尾上の松駅



加古川観光協会ホームページ

<http://www.kako-navi.jp/>

黒田官兵衛と光ホームページ

<http://kanbee.kako-navi.jp>

加古川観光協会

〒675-0064 加古川市加古川町溝之口510-3 加古川駅前立体駐車場ビル2階
TEL(079)424-2170 FAX(079)424-2180

平成26年 大河ドラマ 「軍師官兵衛」がスタートします。



福岡市博物館蔵

黒田官兵衛(黒田孝高/黒田如水) プロフィール

戦国時代から江戸時代前期にかけての武将・大名。豊前国中津城主でもあり、孝高は諱で通称の「官兵衛」や出家後の「如水」の号で有名です。豊臣秀吉の側近として仕え、調略や他大名との交渉などに活躍しました。竹中重治(半兵衛)と双壁をなす秀吉の参謀であり、後世に「両兵衛」「二兵衛」と称されました。キリシタン大名としても知られ、子に黒田長政がいます。

その妻が、加古川にあった志方城の城主・榊橋伊定の娘として生まれた光(てる)です。光は家臣にも慕われ「才色兼備」ならぬ「才徳兼備」と称された女性でした。裏切りが当たり前だった戦国の世に、変わらぬ愛を貫いた官兵衛と光にスポットライトをあててみました。



報土寺蔵

てる 光(幸圓) プロフィール

黒田官兵衛のただ一人の妻で、才徳兼備であったとされており、志方城主・榊橋氏の娘です。熱心な浄土宗信者で圓應寺(福岡)などの寺院を建立しました。1627年、筑前国福岡において亡くなり、墓は報土寺(京都)、圓應寺・崇福寺(福岡)にあります。



銀白檀塗合子形兜
もりおか歴史文化館蔵
官兵衛が愛用した兜。
光の父である志方城主
榊橋伊定から贈られたもの。



光(てる)イメージキャラクター てるひめちゃん

光の生まれ育った地、志方の山々に咲く「ささゆり」を着物と髪飾りにあしらい、着物の色は加古川市花の「つつじ」の鮮やかなピンク色とし、また、着物に榊橋家の家紋(右三つ巴)が入っています。

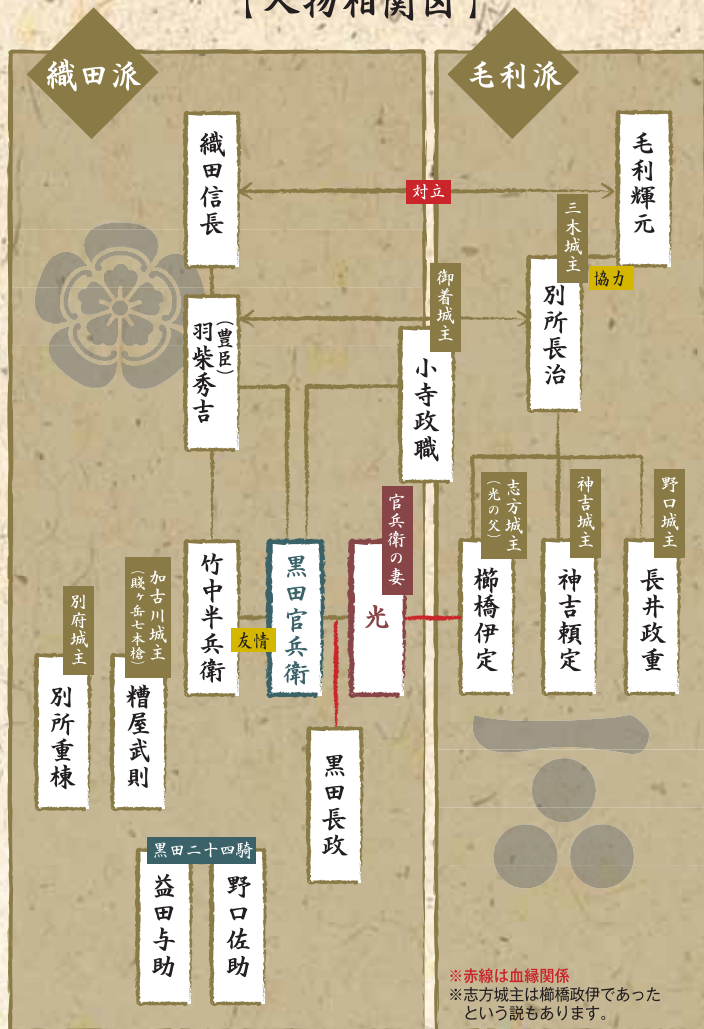


官兵衛イメージキャラクター かんべえくん

姫路を象徴する白鷺を羽織りにデザインし、「采配」を持った天才軍師です。

官兵衛と光を 取り巻く人物

【人物相関図】



歴史年表から見る戦国時代の官兵衛と光
幾多の争いが繰り返された戦乱の時代の中
名軍師として名を馳せた官兵衛と、それを支えた光の生き方を追う。

年代	戦国時代の主な出来事	黒田官兵衛・光・加古川の出来事
1546(天文15) 11月		官兵衛 播磨国の姫路に生まれる
1560(永禄3) 5月	桶狭間の戦い	
1567(永禄10)		官兵衛 光を正室に迎える
1568(永禄11)		嫡男・松寿丸(長政)誕生
1570(元亀元) 6月	姉川の戦い	
	9月	石山合戦開始
1575(天正3) 5月	長篠の戦い	
	6月	御着評定
	7月	織田信長に謁見
1576(天正4)		英賀合戦
1577(天正5) 10月	羽柴秀吉 播磨へ進駐	官兵衛 阿弥陀村(現高砂市)で秀吉を出迎え 長政(松寿丸)を人質に出す 福原城の戦い
	11月~	上月城の戦い(第1次)
1578(天正6) 3月		加古川評定→三木攻め開始
	4月	別府城の戦い 野口城の戦い 上月城の戦い(第2次)
	6月	神吉城の戦い
	7月	志方城の戦い
	10月	荒木村重の謀反 官兵衛 有岡城へ村重の説得に向かい、1年間幽閉される 人質・松寿丸(長政)が、竹中半兵衛にかくまわれる
1580(天正8)	石山合戦終了	三木城の落城
1581(天正9) 7月		因幡攻め
1582(天正10) 4月		備中高松城攻め
	6月	本能寺の変 官兵衛 秀吉に中国大返しを建言
		山崎の戦い
1583(天正11) 4月	賤ヶ岳の戦い	
1584(天正12) 4月	小牧・長久手の戦い	
1585(天正13)	四国平定	官兵衛 軍監として参加
1587(天正15)	九州平定	官兵衛 軍監として参加 官兵衛 豊前国の大名となる
1588(天正16)		中津城(大分県)の築城開始
1589(天正17)		家督を嫡男・長政に譲り、如水と号して出家する
1590(天正18) 4月	小田原攻め 奥州平定	官兵衛 小田原城に入り、北条氏を説得し、無血開城させる
1592(天正20) 4月~	文禄の役	官兵衛 軍監として参加
1597(慶長2) 1月~	慶長の役	官兵衛 軍監として参加
1600(慶長5) 9月	関ヶ原の戦い	光 石田三成の人質として大阪城へ 長政が筑前国52万3千石の大名となる
1601(慶長6)		福岡城の築城開始
1603(慶長8) 2月	江戸幕府が開かれる	
1604(慶長9)		官兵衛(如水) 死没(59歳)
1623(元和9)		長政 死没(56歳)
1627(寛永4)		光 死没(75歳)

官兵衛ゆかりの
加古川出身
人物



野口佐助

(のぐちさすけ)
加古川市野口町の生まれ。
官兵衛に仕えて福原城攻め
などで高名を上げ、九州の
陣でも活躍。



益田与助

(ますだよすけ)
加古川市東神吉町の貧しい農家
の生まれ。官兵衛の下僕として
働き、数々の手柄を立てた。

糟屋武則

(かすやたけのり)
鎌倉時代から続く武家で、12代加古川
城主。賤ヶ岳の戦いでは秀吉方で活躍し、
後に賤ヶ岳七本槍の一人として武名を
あげた。

官兵衛と光ゆかりの 史跡マップ



8 日光山常楽寺

大化5年(649)に法道仙人の開基といわれている真言宗の寺院です。秀吉の播磨攻めの時、堂塔伽藍全てを焼失し、延宝6年(1678)に再建されました。秋にはきれいな紅葉が楽しめます。

【所在地】上荘町井ノ口158

TEL (079) 428-2207



9 常楽寺(神吉城跡)

秀吉の播磨攻めの時に落城しました。境内には、神吉城主だった神吉頼定のお墓があります。

【所在地】東神吉町神吉1413

TEL (079) 432-3866



10 太閤岩

加古川市西神吉町辻の北側の岩山にある岩。秀吉が志方城を攻めた時、ここに本陣を置き、この岩に腰をおろして軍兵の采配をとっていたといわれています。この太閤岩からの眺望は素晴らしく、高砂の海、加古川全域、明石海峡大橋や淡路島、そして志方町方面一望できます。

【所在地】西神吉町辻



6 称名寺(加古川城跡)

加古川城で加古川評定(信長軍と毛利軍が戦った)となった(会議)が行われました。また、禮屋武則(12代加古川城主)は、黒田官兵衛の推荐により秀吉に仕え、後に幾ヶ岳七本槍の一人として武名をあげました。

【所在地】加古川町本町313

TEL (079) 422-2262



7 教信寺

天台宗の寺院で、本尊は阿彌陀如来です。平安時代前期の僧・沙弥教信が庵をつくり、庶民仏教の普及に努めた庵跡に建てたのが教信寺です。秀吉の播磨攻めの時、寺の東側にあった野口城では、教信寺の僧兵と野口城兵が秀吉軍相手に戦いましたが、奮戦やむなく落城しました。野口城の位置については、近世の山陽道の北側にあったという説と南側にあったという説があります。

【所在地】野口町野口465

TEL (079) 422-7189



1 観音寺(志方城跡)

曹洞宗の寺院で本尊は観世音菩薩です。付近一帯は志方城跡です。城主・柳橋伊定の娘として生まれた光(てる)は黒田官兵衛のただ一人の妻です。現在の観音寺境内を本丸とし、内堀の周囲に二の丸、西の丸があるかなりの規模の城だったと考えられています。天正6年(1578)秀吉の攻略にあって落城しました。

【所在地】志方町志方町720

TEL (079) 452-2370



2 安楽寺

もとは真言宗の寺院で、赤松氏の没落後、志方城主柳橋氏によって浄土宗寺院として再建されました。白い塀が長くつづいているのが印象的で、春には見事な桜が楽しめます。

【所在地】志方町細工631

TEL (079) 452-0328



3 志方の城山(中道子山城)

秀吉の播磨攻めの時に落城したといわれています。登山道は整備され、頂上からは北に七ツ池、東に権現ダム、西に高御位山、南は播磨灘まで見渡せる絶景です。

【所在地】志方町岡・広尾

4 長楽寺

秀吉の播磨攻めの時、長楽寺の伽藍は焼失してしまいましたが、住職が本尊の「木造地藏菩薩半跏像」を抱いて身を隠し、兵火から守ったといわれており、国の重要文化財に指定されています。また平成23年の「台風12号」により甚大な被害を被りましたが、本尊は無事でした。

【所在地】志方町永室853-1

TEL (079) 452-2530

5 円照寺

境内の梵鐘は秀吉が中国平定の際いで、山口県の上野八幡宮の鐘を陣鐘として使い、帰京の際にこの地に置いていったものといわれており、市指定の文化財となっています。

【所在地】

志方町広尾1029

TEL (079) 452-2067



秀吉の播磨攻めとは…



加古川評定

天正6年(1578)2月下旬、織田信長の家臣羽柴秀吉は、中国地方の覇者毛利氏平定のため播磨国に下向し、糟屋(加須屋)氏の加古川城(加古川町)に諸城主を集め、加古川評定を行いました。ところが、その直後、三木城主別所長治が毛利氏と結び織田氏に反旗を翻し、加古川周辺の諸城の多くも別所氏に従いました。



加古川評定(三木・法界寺蔵)

別府(阿閉)城*の戦い

※現在、別府(阿閉)城の場所は不明です。

4月1日、織田方の別所重棟が守る別府(阿閉)城に毛利軍が攻め寄せましたが、秀吉の命により、黒田官兵衛が応援に駆け付け撃退しました。

野口城の戦い

4月3日、秀吉軍が野口城(野口町)を攻撃しました。城主長井政重は鉄砲や弓でよく防ぎましたが、秀吉軍は刈り取った草木で城の周囲の沼田を埋め、3日間激しく攻め落城させました。



野口城の戦い(三木・法界寺蔵)

神吉城の戦い

※1,000余騎、1,700余騎と様々な伝えられています。

6月27日、織田信長の長男信忠が率いる30,000余人の軍勢が神吉城(東神吉町)に攻め寄せました。城方は城主神吉頼定や梶原冬庵ら1,800余人*が迎え撃ちました。信忠軍は竹束で鉄砲や矢を防ぎ、堀を埋め築山を築き、城楼(せいらう)から大鉄砲を撃ち込み、激しく攻撃しました。20日近い籠城の後、7月15日夜から16日にかけて、滝川一益や丹羽長秀に東の丸、中の丸に攻め込まれ、頼定が討たれ天主は焼け落ち落城しました。



神吉城の戦い(三木・法界寺蔵)

志方城の戦い

※城主は櫛橋政伊であったとの説もあります。

続いて行われた志方城(志方町)の戦いには諸説があります。「信長公記」には、神吉城の落城後、織田軍が総勢で攻めかかったので、ここも守りきれないとみて降参し、人質を出して城を明渡したことが記されています。一方、「志方町誌」によると、志方城は城主櫛橋政伊(黒田官兵衛の妻光姫の父)*をはじめ城兵1,000余人で、何度か城門を開いて切って出たが、衆寡敵せず死者が増すばかりであり、そのうえ城兵の過半数は赤痢に倒れて武器を取る力もなく、今はこれまでと降伏したと記されています。

三木城の戦い

加古川周辺の諸城が落城した後、秀吉は孤立化した三木城(三木市)を包囲し、「三木の干殺し」といわれる兵糧攻めを行いました。城内の食糧は次第に乏しくなり、軍馬まで食糧としました。2年近い籠城の後、天正8年(1580)1月、城主別所長治は、城内の人々の助命を条件に自害し、城は落ちました。



三木城内の飢えの様子(三木・法界寺蔵)

姫路城



現在の姫路城は関ヶ原合戦後に築かれものだが、官兵衛の時代に祖父重隆と父隆隆が築いた城があり、官兵衛はここで誕生。官兵衛は1580年の三木城落城後、姫路城こそ中国攻めの拠点にふさわしいと秀吉に明け渡した。

三木城跡



三木合戦の舞台。「三木の干殺し」と呼ばれる凄惨な兵糧攻めは1年10か月に及び、城主別所長治は兵士や領民の命と引き換えに一族とともに自刃した。

ゆかりの地 官兵衛と光

圓應寺



福岡県にある光が建立した寺院。光の死後、照福院殿としてまつられていたが、戦災に遭い、墓は崇福寺に移された。現在は供養塔がある。

崇福寺



福岡県にある黒田家の菩提寺。境内には福岡藩主黒田家墓所があり、官兵衛と光の墓が並んでいる。

加古川には、いろんな 魅力がいっぱい!!



加古川のご当地グルメ「かつめし」

ご飯の上にビーフカツをのせ、デミグラスソース系のタレをかけ、洋皿にお箸で食べます。カツの揚げ油の香ばしさと、甘さと酸味の効いたタレがご飯と混ざりあい、絶妙なバランスを醸し出します。加古川市とその周辺では多くの飲食店や家庭で親しまれていますが、市外ではほとんど目にする事のない不思議なメニューです。かつめしは、戦後間もない頃に加古川駅前の食堂で考案されたと言われていて、今では加古川市やその周辺の150以上の店舗で食べる事ができます。スーパーでは専用のたれが販売され、家庭でも気軽に食べられ、また学校給食のメニューにも取り入れられています。まさに愛する加古川の名物となった「かつめし」を、ぜひ食べてみてください!

加古川和牛



JA兵庫南や加古川市などが2004年に創設した牛肉の新ブランド。県内で生まれた但馬牛を、市内の農家が自家配合飼料と加古川の伏流水を与え愛情こめて育てました。肉質や霜降りの程度など、厳しい基準に合格した安全で安心、しかも良質でおいしいお肉です。ステーキや焼き焼きに最適です!

官兵衛と光
展示コーナー
併設



鶴林寺



589年、聖徳太子が16才の時、秦河勝(はたのかわかつ)に命じ仏教をひろめるための道場として建てられました。釈迦三尊と四天王を祀り「四天王寺聖霊院」と称されたのがこの寺のはじまりといわれ、播磨の法隆寺とも呼ばれています。平安時代の壁画が見つかった県下最古の木造建築「太子堂(国宝)」や、盗み出し壊そうとしたら「アイタタ」という声が聞こえたため、泥棒が改心したと伝わる「金銅聖観音立像」など、多数の仏教美術が残されており、太子堂建立900年に合わせて新宝物館が整備されました。

くつした



1886年、上海から持ち帰った手回しのくつした編立機をきっかけに、くつした製造業が芽生えました。現在では、奈良県、東京都とともに日本三大産地に発展。加古川市の代表的な地場産業になっています。

国包建具

日本一の木工の里・飛騨の高山にたたえて、「西の高山」と呼ばれる国包地区。加古川上流から運ばれる原木の集散地だったことから、江戸時代の1825年頃から建具作りが始まり、現在も100人以上の職人さんが製造に従事しています。その独自のデザインと確かな技術は全国的に有名で、姫路城の欄間(らんま)などにも使用されています。



JR加古川駅構内 かこがわ観光物産館

「かこがわ観光物産館」は、JR加古川駅構内の「まち案内所」に併設しております。館内では、かつめし・菓子・地酒などのご当地グルメ、伝統工芸から革新的な技術製品など幅広くご紹介しています。

■開館時間 9:30~18:00(年末年始休館)

TEL (079) 456-0222 FAX (079) 456-0226